

神奈川県立平塚支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を次のとおり開催した。

審議会等名称	第1回神奈川県立平塚支援学校 学校運営協議会		
開催日時	令和6年6月17日（水） 午前10時00分～11時45分		
開催場所	校長室		
出席者	運営協議会委員等8名（本校校長含む） 事務局教職員 4名		
次回開催予定日	令和6年11月予定		
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	/
会議経過	<p>1 開会</p> <p>(1) 会長あいさつ</p> <p>(2) 校長あいさつ</p> <p>(3) 委員自己紹介</p> <p>2 令和6年度学校運営協議会について</p> <p>(1) 学校運営協議会の組織について説明 学校評価部会、切れ目ない支援部会に加え、今年度から本校及び地域の実情を踏まえ、防災部会を設置する計画である。メンバーについては今後改めてお願いすることになる。</p> <p>(2) 年間計画について説明</p> <p>3 学校評価部会について</p> <p>(1) 令和6年度から4年間のグランドデザインについて説明</p> <p>(2) 令和6年度の学校評価に係る目標設定について説明</p> <p>4 切れ目ない支援部会について</p> <p>(1) 昨年度の振り返り及び今年度の取組みについて説明</p> <p>5 地域防災部会について</p> <p>(1) 本校の課題及び設置の理由について説明</p> <p>6 インクルーブ湘南との協働について</p> <p>7 意見・質疑応答</p> <p>(1) 学校運営協議会及び学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目標達成の測定の方法が分かりづらい。定性的な表記はあるが、定量的な表記がないため、目標達成の度合いをどのように計ろうとしているのか教えていただきたい。 ○ 授業の効果に係る現状の進み具合について、評価の基準や視点に基づいて振り返りが必要である。 		

○ ホームページをよく見ている。更新が頻回であるとうれしい。今年度取り組む重点事項や更新頻度を示してあると実施の有無や評価もしやすくなる。

○ 各項目の取組みの進捗状況も一つの評価の基準や視点になる。今後の学校の取組みに際し、引き続き検討が必要である。学校評価、学校運営協議会の大きなテーマとしていただきたい。

(2) 防災部会について

○ 設置の目的は何か

⇒ 本校が水害の危険な地域に入っていることや登校してくる児童生徒の居住地が広範囲に渡っていることから、すぐに保護者が迎えに来られない。また、垂直避難の際に、順番に移動するため、誰かは待つ必要があることなど、様々な課題があることから、委員や地域の皆様のアイデア等をいただきながら、安全な学校を目指すためである。

○ 本校には指示や大きな声でおびえ動けなくなってしまう子どもも在籍している。このことに力を入れることはよいことである。

○ 花菜ガーデンのピークのシーズンには一日 2,000 人～3,000 人のお客様が来場する。もちろんマニュアルはあるが、隣の平塚支援学校との連携をとって、どのように補完していくのか、真剣に考える必要がある。

また、花菜ガーデンは建物が平屋であり、コンクリート打ちっぱなしであることから、倒壊の可能性は低く、火災を想定した避難が基本となっている。

○ 平塚市社会福祉協議会と防災に関わる具体的な相談はしているのか。

⇒ していない。

○ 現状の学校のマニュアルを配付していただきたい。地域のマニュアルも参考に提示する。

(3) 地域との協働について

○ 平塚支援学校にはセンター的機能を存分に発揮していただくとともに、小学校でもインクルーシブな学校を進めていくことがセンター的機能をより発揮するのに不可欠である。

どのようなところを意識して情報発信をしているのか見えない。

⇒ 各市町の教育委員会から所管の学校にはどのようなニーズがあるのかを会議等とおして吸い上げ、それに合わせた情報発信をしていく予定である。

○ 地域との協働であれば、さらに重点的な取組みを教えていただきたい。外に発信とういうのであれば、今の状態で大丈夫だろうか。

教育委員会が各学校のニーズを把握するのは困難である。地域の学校を直接支援しながら、インクルーシブ化をリードする役割を担ってほしい。

⇒ 本校も支援チームの一員である。学校のニーズに対して教育委員会が事務局として、どこが支援に行くのか調整をすることは大切であると捉えている。

○ 特別支援学校の巡回相談において、個のニーズに応じたアドバイスをしてくれたことで、子どもにより変化が見られた。

(4) 切れ目ない支援部会について

○ 計画では構成員との間で進んでいるのかもしれないが、実行するにあたり、様々な手助けやその振り返りはどのように進めていく関係になるのか。

⇒ 構成員が一同に会することは困難なので、各取組みそれぞれで活動し、それらを最終的にまとめていくことになる。

(5) インクルーシブハブ湘南との協働について

○ 各イベントの感想や意見はどのようなものであったか。

⇒ 教員が提供できない経験ができることであることから、どの回もよかった。またやりたいと聞いている。

○ イベントは非常に楽しくできた。障害児にとって、ハードルが高いスポーツでもそれを埋めるメンバーがそろっている。引き続き取り組んでいく。

一方で実習材の提供が遅れているので、今後は厚くしていきたい。

地元のバス会社の協力で水泳教室がスタートする。

9月末には Deaf SUP 大会、10月にはインクルーシブイベント等を予定している。

合理的配慮についても、様々な企業への啓蒙活動をしていく予定である。

ICT に関する事で、このような講座を開催してほしいという希望があったらお知らせいただきたい。